



ボランティア 延べ 10000人突破!

2013年4月に初めてのボランティアとして支援企業・団体の担当者を中心としたグループを受け入れ、2014年4月から一般募集のボランティアの日を設けて以来、6年間で延べ10000人のボランティアさんが海岸林の現場作業で汗を流してくださいました。気温30度を超える猛暑日、雨が降り続く足元の悪い日、強風の日、悪条件の中でも黙々と作業をしてくださったみなさんに感謝しています。

Interview 企業・団体の方にお伺いしました

ボランティアに参加する事で社内どのような影響がありますか?

第一三共株式会社 CSR部 山本潤
(2014年から毎年、社員が参加)

いつも吉田さん、浅野さんのクロマツ愛に刺激を受けています! 弊社では以下のような側面でImpactを頂いています。

- ◎ 参加することにより従業員のなかで震災の記憶を風化させない
- ◎ 社内外の参加者と一緒に作業することで、ネットワークが広がる
- ◎ クロマツの育林作業を通じて日常の業務では得られない気付きを感じる事ができる
- ◎ 参加者自身のボランティア意識が醸成され、職場などに伝える事によって周囲の人のボランティア意識も向上させている

組合活動の一環としてボランティアに参加する意義は何ですか?

全積水労働組合連合会 会長 大熊隆史
(2014年から5回、組合員が参加)

年に1回仙台の地に集合し、そこで暮らす方々に思いを馳せ、汗を流し、語り合い、繋がりを強め、強くしていくこの活動は、決して仕事だけでは得ることができない多くの感動や気付きを与えてくれる貴重な場であると感じています。参加者の気持ちがひとつになることの心地よさを感じ、組合活動の原点を改めて確認するよき学びの場となっています。

終わりの会でのひと言コメント

道具の片付けまで終わった後、参加者全員でのミーティング「終わりの会」を行っています。毎回5人ほどから作業を終えての感想を語っていただきます。作業中は「早く休憩にならないかな」「あー!」などと心で思いながらも、8時間の肉体労働を終えると気づきがあるようです。それぞれ共通するキーワードがあります。

宮城県内の方は...
遠くから参加してくれている方が多く驚きました。

リピーターさんは...
クロマツに愛着がわいて、成長がとても楽しみです。

企業・団体の方は...
他社と交流ができ、つながりが持てました。

担当者より



担当部長 吉田俊通

ボランティアの皆さんを「無償で作業をしてくれる労働力」とは思っていません。プロジェクトの戦力として一翼を担ってもらうために、海岸林の意義や作業の必要性など説明を尽くしています。これまで大きなケガもなく受け入れができてきているのは、参加の皆さんの高い意識があるからこそだと思っています。クロマツの成長によりボランティア作業内容は変化していくものと思いますが、募集は少なくとも2022年までは続く予定です。年に1回、2年に1回でもいいですから、現場に足を運んでみてください。

ボランティアに参加する事は生徒にどのような影響を与えていると思いますか?

名取北高等学校 教頭 鈴木和幸
(2016年に植樹祭に初参加以降、ボランティアにも参加)

本校へ入学する生徒の多くが「他人のために何かをしたい」という思いを持っています。本校卒業後、看護師や保育士、公務員等に就く卒業生も多くなっています。

海岸林再生プロジェクトも年々参加者数が増加し、被災地にある学校として震災関係ボランティアには特に協力的です。このように生徒たちが活躍できる場を提供していただいたことに感謝しております。

参加者を募る際、工夫している点、留意している点などはありますか?

イー・エス・ジェイ クルアライヴス 小西純平
(2014年からUAゼミの枠で参加、2018年から年2回組合員が参加)

弊労組では一人でも多くの組合員にボランティア活動に参加してもらい理解の輪を広げる為、未経験者に積極的に呼びかけていますが、同時にリピーターにも身近な人と一緒に参加してもらおう様声を掛けています。一人では参加しづらくても身近な経験者と一緒にならハードルも下がり、またその組合員が別の未経験者と参加してくれる...と少しずつですが輪が広がっています。

参加者のみなさんの属性いろいろ (2018年3月~2019年6月の実績)



※2019.6.29 ボランティアの日の実績

6月のボランティア受け入れ状況

	SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
		27	28	29	30	31	1
					6	7	6/8 ボランティアの日 86人
9					6/14 化学総連・積水 化学労組98人		6/15 京セラ労組・凸 版労組67人
16					20	21	
2	6/29~30 JR連合 29人	25	26	6/28 パイルトップサイ ス19人		6/29 ボランティアの日 119人	

6月はボランティア参加希望の多い月です。今年は418人が参加してくれましたが、雨が多くて思うように作業しただけなかったのが残念です。(広報室 林久美子)



イベントご案内 「国際協力の日のつどい」 シンポジウム とき:10月1日(火)

※詳細は同封のチラシをご覧ください

Eco-DRR

(生態系を活用した防災・減災)を軸としたオイスカの新たな展開

参加費 無料

～スピーカーのご紹介～



インドネシア マングローブ 植林事業 担当責任者 プリハルト・ラフマツ

累積で3000haを超えるマングローブ林の再生を手掛けてきたインドネシアにおける現場責任者。海面上昇で水没しつつある村、成木もなぎ倒す強い波が押し寄せる沿岸など非常に困難なサイトでの挑戦をはじめ、全国7カ所での植林に取り組んでいる。



オイスカアラ善砂漠 生態研究研修センター 所長 富樫智

中国内モンゴルで2001年より1400ha、207万本の緑化を行い、2015年から中央アジアのウズベキスタンでもスタート。地元農牧民と漢方薬の栽培を行い、経済的自立を目指しながら塩害の研究なども行なっている。(専門は林学、土壌学(農学博士)千葉大学研究員・非常勤講師)



フィリピン エンバピスカヤ 植林プロジェクト 代表 マリオ・ロペス

フィリピン北部で1993年から植林を開始し、600haのはげ山を緑化。「水なし村」を意味するキラン村への緑化により、米作りが年1回から2~3回へと増え、地元住民の生活向上にも貢献している。はげ山を見ると、植林しなければという気持ちになるという。

これまでの実績

	植栽本数	植栽面積	ボランティア数	講演会開催数・聴講者数	寄附金額(民間助成金)
2011~13年度	—	—	262人	75回 11,195人	240,478,577円
2014年度	80,182本	15.67ha	1,365人	30回 4,692人	100,263,158円
2015年度	55,084本	10.06ha	1,691人	30回 4,996人	101,024,711円
2016年度	56,037本	11.00ha	1,800人	26回 3,893人	89,502,022円
2017年度	71,945本	13.66ha	2,096人	30回 5,911人	84,045,449円
2018年度	81,600本	16.32ha	2,273人	19回 3,914人	89,877,990円
2019年度(7/17現在)	6,000本	2.00ha	819人	10回 2,290人	8,521,439円
合計	350,848本	68.71ha	10,246人	220回 36,891人	713,713,346円